

令和6年4月30日 市長定例記者会見 会見録

◆司会

それでは、ただいまから、市長定例記者会見を始めさせていただきます。
市長、よろしくお願いいたします。

◆市長

よろしくお願いいたします。

今日の発表案件は2件、「清水庁舎、静岡庁舎の耐震性解析結果と今後の検討の進め方について」、もう一つは「人口減少対策にかかるアンケート調査の実施について」です。まず、清水庁舎、静岡庁舎の耐震性解析結果と今後の検討の進め方について、ご説明をいたします。これについては、長らくいろんな形で検討を進め、議論も議会等でもあった案件ですけれども、耐震性の解析をやって最終診断結果が出ましたので、今日はそれをお伝えしたいと思います。

経緯ですけれども、資料2になりますが、清水庁舎です。まず清水庁舎については、2011年3月の東日本大震災を契機に、安全性に問題があるんじゃないかということで、第1次、第1段階目の診断をしました。この第1段階目の診断、この日本建築防災協会の第1次診断法というのは、ちょっと混同されていることがありましたので、去年の4月、私が市長になってから、あえて第1段階目の診断という言い方に変えております。2012年に第1段階目の診断として、日本建築防災協会の第1次診断法という簡易な検討方法で診断を実施しました。その結果、耐震性に問題があるということになりましたので、次に第2段階目の診断として、もうちょっと詳しい診断を行いました。これについても、同じく日本建築防災協会の第2次診断法というのをを用いております。この結果、これは静岡県が目標とする庁舎に求められる耐震の目標値を下回り、補強が必要であることがわかりました。

その後、いろいろ清水庁舎については、移転の問題ですね、静岡駅の東口に移転するのか、ごめんなさい、清水駅の東口に移転するのか、現位置の改修か、それとも現在の建物の現位置での今の建物の改修か、それとも現在の清水庁舎が建っている横の駐車場にもう一つ建て替えるのか、その辺りの議論があって、これについて結論が出ていませんでした。

昨年4月、私が市長に就任して、これまでの2017年から2022年までの清水庁舎の移転問題について、再整理しました。その結果、現時点においては清水駅東口には庁舎の移転先として十分な用地がないので、その一方で清水庁舎の大耐震改修は緊急を要する。そして、ライフサイクルコストですね、一定期間の間で庁舎にかかる費用がいくらか、毎年いくらかかるのかを精査したところ、現在の清水庁舎の横の駐車場のところで、新しく建物を建てるというのが、一番コストは安いんですけども、様々な点を考慮して、今、清水庁舎、現にに使っているわけで、新しい建物をつくるとなるとかなりの年数を要しますので、まずは、緊急回避策として、現在の位置での改修案、現在の建物の改修案を選択するというにいたしました。

ただ、そのためには、より詳細な耐震診断とそれに基づく耐用年数と補修費用の関係を

明らかにして、一体いくらかかるのかと、どの程度安全性が向上するのかということをしかり判断する必要があるとしました。

そのためには、この庁舎がどのような耐震性を持っているのかということ、これは例えば、柱であるとか壁であるとか梁であるとか、それがどのような損傷を受けるのかということをしかり把握する必要がありました。したがって、第3段階目の診断というのを2023年度に行いました。これは、後ほどご説明する時刻歴応答解析という動的解析とも言いますが、実際に計算機上で建物を揺らして、どこに損傷が生じるかということ調べるものです。

もう一つ、静岡庁舎については、1981年の設計時に、時刻歴応答解析という地震動を実際に入れてみて解析が行われているので、現行の耐震基準には適合しています。しかし、その後、長周期でゆっくり揺れるもの、特に高い建物については、それが影響しますので、それについて検討する必要が生じました。その後ですね、何らかの検討が必要だということになっていましたけれども、特に検証は行っていませんでした。このたび、清水庁舎の耐震性をこの動的診断、時刻歴応答解析を行うことになりましたので、静岡庁舎についても同様に、この時刻歴応答解析を改めて実施をしました。

3ページ目になります。時刻歴応答解析についてのご説明です。時刻歴応答解析というのは、コンピュータ上で柱・梁・壁をモデル化して、想定される地震波に対して建物がどのように揺れるかを数値シミュレーションすることで、建物各部材の変形や損傷の可能性を把握できるものです。

今回は清水・静岡、両庁舎とも、この解析ソフト「構造システムSNAP Ver8」というのを使用しております。解析の進め方ですけれども、建物の地上部分のモデル化ということが必要になります。そのために、どういうモデル化をするかということですが、少し時刻歴応答解析について、この模型を使ってご説明したいと思います。

これが建物だと思ってください。そして、1次診断、2次診断と言っているのは、こういう建物に対して横からですね、こう静的に、こういうふうに力を加えるものです。この下の方が大きいのは、重いものほど地震が揺れたときに大きく力が働きますので、下に大きな力がかかって、上ほど力が小さいというものです。ただ、実際に地震が来たときに、ご理解いただけるとは思いますけど、地震が来たときこんな力ばかりありません。揺れるのは、この地盤の、ここだけです。こんなふうに揺れるわけですね。ですけど、これを解析しようと思うと、なかなか高度な解析があるので、こういうふうに仮定をして入れるというやり方になります。ただ、これではどの程度の耐震性があるのかという、よく言うIS値というものがあるんですけど、それはわかりますけども、本当にこれがどの程度の耐震性があるのかわかりません。やはりこうやって、下からこういうふうに揺らしてみても、こういうふうになるかどうかというのを見ないといけないということになります。

それで、ここの建物ですけども、清水庁舎と静岡庁舎ともに、ここに大きな鉄骨が入っていて、鉄のパイプだったりもしますが、こういうものが入っていて、それとコンクリートを周りに撒いているような構造になっています。なぜ、そういう構造になっているかということですが、ちょっとご説明しますが、鉄ですね、鉄は、例えば、清水庁舎はこういうふうな、後ほど出てきますけど、こういうふうな、ここの

中に鉄の管が入っています。この管はですね、こうやって、上から下に押されると非常に弱いんですけども、こういう引っ張りにはものすごく強いという特徴、これは鉄の特徴です。

もう一方で、ここにこんなものがありますけれども、これはコンクリートですね。コンクリートはこうやって押しには非常に強いですね。何とか感覚的にわかると思いますが、押されてもなかなか壊れないんですけども、引っ張りにはすごく弱いんですね。こんなふうですぐ抜けちゃいます。この引っ張りには非常に弱いというものと、この引っ張りには強い、そして圧縮には弱い、こっちは圧縮に強いということですね。それを組み合わせるとこういうものになります。もう1回示しますと、これが圧縮に弱いというのは、こういうものは、こうなります。ですから、こういうスチールの鉄の長いパイプだったり、長い断面のものは、押されると非常に弱い状況にあります。その両方の欠点等を補って強みを生かすために、こういう鉄筋のコンクリートですね。そうすると周りにこうやって鉄を入れて、コンクリートと合わせた、いわゆるハイブリッドにすると。押されても強いし、引っ張りにも強いという構造になります。

これがどういう形で壊れるかということですけども、こういうところに部材が入っていますが、これが、まずは、ここにこういう部材があると、あるいはこの部材もそうですけど、曲げですね、曲げでこうなります。それから、もう一つは、曲げと伸びですね。あとは伸びで伸ばされると切れるということも、こういうものは伸ばされると、こう切れます。こういうものが。もう一つは、こういう、せん断破壊と言いますが、こういうものに、こういう力が入るとフニャッと。こういうものでやるとパスンと切れちゃうわけですね。こう切れます。このあたりを評価するのが大事になる。

今のは部材ですけど、もう一つ大事なものは、これが一つ一つの部材は大事なんですけど、グラグラ揺れたときに、例えば、3階と4階がこういう揺れ方が変わるので、この変形が大きくなるとグシャツとなると。こういう問題があります。したがって、一つ一つの部材は強いんですけども、層間変形というんですけど、下の層と上の層の間の変形が大きくなると潰れるっていう、こういうことがあります。これをこうやって揺すったときに、どこにどのように力が、どこの部材にどういう力がかかるか、それから、この層がどういう変形をするのかっていうのを調べるのが、時刻歴応答解析になります。3ページに戻っていただいて、これをシミュレーション上でモデル化をします。さっき言ったような、押したり引いたりする軸力とせん断と切る方ですね、そして、グニャツと曲げる力、これらに耐えるかどうかというのをモデル化します。

そして、次のページ4ページを見ていただいて、清水庁舎も静岡庁舎も地下に入っています。設計事務所も同じで、同じような構造で作られていますけども、こういう地下の部分がありますので、地下の地盤の評価が必要になります。

結論を申しますと、左側ですね、基礎部分が完全固定というのは、この静岡庁舎の場合は地盤が砂とか礫で非常に強いですから液状化しないので、液状化を全くしないわけじゃないですけど、液状化する可能性が低いので、こうやってちゃんと地盤の中で、建物が揺れるときに地盤が支えるようになっています。清水庁舎の場合は液状化が生じますので、液状化っていうとどういう状態かという、水の状態、液体の状態になりますので、それだと水圧しかかからなくなります。ガチツと支える力がなくなります。

清水庁舎ではこの液状化を使ったモデルをしています。

4ページの下ですけれども、遠くから地震波が入ってきて、そして、下の方に岩盤層だとかありますが、それが実際の建物の基盤のところ、底部に入ってきてどう揺れるかというのを解析します。このときにどういう地震動を入れるかということですが、これはいろんなものがもう決められていまして、南海トラフ地震であるとか、あるいは過去に観測された波であるとか、そういうのをいろいろ入れるようになっています。ここでは合計11波、入れる形にしております。

時刻歴応答解析によりわかることということですが、先ほど言いましたような、この横に、もう一度申しますと、こういう部材があって、ボキッという、こういう、せん断ですね、それから曲げですね、曲げて、こう破壊するっていうところですね。その辺りについて検討をしております。

それから建物全体の耐震性ということですが、これは層間変形というのがあります。層間変形というのは、例えば1階と2階で揺れ方が違いますので、これで分かりますように各階で揺れ方が違いますので、最大のこの変形がどのくらい出るのか。1階と2階の基部と3階の基部のところ、どのくらいの横方向の移動が出て、それが高さに比べてどのくらいあるのか、というのが層間変形になります。これを計算して層間変形を計算すると、各階が持つかどうかというのが、大体わかります。

7ページをお願いします。この層間変形を見るんですけれども、小破・中破・大破となっていますが、層間変形が大きくなると、小破・中破・大破となっていきます。

この次をお願いします。それで、先ほど層間変形というのが、100分の1というのが一つの目安になりますが、100分の1より小さいときは、小破で若干の変形は残りますけれども、余震が起きても耐えられるということになります。ただ、部材はある程度の損傷を受けます。この100分の1から100分の2というところですが、これは、層間変形というのは、高さ分の横変形ということですから、この高さに対して、横がどのくらいずれるかということです。これが100分の1以上ずれると中破になります。変形が残って、余震により大破する可能性があると考えていただければいいと思います。100分の2以上になると、もう大破で、これはもう余震による崩壊する危険は非常に高いということになります。そもそも初めから相当やられるという状態になります。これで言うと、層間でこんなふうに潰れる可能性もあるということになります。

次、8ページですけれども、解析結果どうなったかということですが、これが清水庁舎の解析結果です。ここに、こういう縦・横にいろいろ入っていますけれども、これが縦だったり横だったりと思ってください。これは板になっていますけど、実際にはこういうところに梁が入っています。こういう梁ですね。こういうものがこの中に入っている形になります。見ていただくと、こういうところですね。分かりにくいかもしれませんが、横の梁ですね。それから縦の柱、こういうところに、せん断破壊ということですから、こういうボキッとした破壊が起きる可能性があるということになります。したがって、非常に危険な状態ということになります。

次に9ページをお願いします。こちらが層間変形です。層間変形は、この100分の1が目安と言いましたけども、こういうふういろんな波を入れて、どの波が来たときに一番危険かというのがあります。これは、下の揺れの周期であったり、それから揺れの

大きさ、揺れ幅であったり、どのくらいゆっくり揺れるかとか、そのあたりが影響します。あるいは、どのくらい長い時間、揺れ続けるのかっていうのも影響してきます。この清水庁舎においては、南海トラフ型の地震ですね、これについてが一番危険になって 100 分の 1.6 という状態が発生します。1階と2階と3階、4階、5階、このあたりが、100 分の 1 を超える、つまり中破から大破に近い状態になるという結果が出ています。ただ、100 分の 2 を超えていませんので、まだ中破程度、つまり第 1 波では壊れないけれども、壊れないというのは大破しないんですけども、余震には壊れるというような状況になります。

地震を受けた際の被害というのを 9 ページに書いていますけれども、今言いましたように、1階から5階で最大 100 分の 1.6 の層間変形が見られる。それから各部材についても、せん断破壊が生じるということになります。結果として、この清水庁舎は本震直後の崩壊は免れるため、地震直後の退避は可能になります。ただ、地震後に変形が残りますので、その後の余震によって大きな被害を受けて大破に至り、安全確保が困難になる可能性があります。それから、地震の揺れで大きく揺れますので、これは天井や什器などの室内被害も甚大なので、機能維持が困難な状態が予想されます。

それから建物全体で見ると、9 ページに戻していただいて、この 1階から5階、特に 1階から4階ですね、これが弱いと。とりわけ 1階から3階が弱いという状況になります。

これから清水庁舎の補修方法の検討の進め方ですけども、以上の解析結果を踏まえて、まずは 8 ページに戻してください。こういうところが弱点になっていますので、この弱点を補強する方法を考えます。ただ、弱点を補強しても、全体のこういうところは強くはなりませんけども、全体の大きな揺れがですね、揺れが収まるかどうかっていうのはなんとも言えないところです。したがって、全体の揺れを抑える方法も考えないといけないかもしれないです。

これちょっと誰か入れて、これ 1階はこうですけど、例えば、これを入れてもらうと、上ですね。はい。3階に、今、2階、3階と4階にはこの壁が入っていませんでしたが、ここに壁を入れるともう全然揺れ方が、さっきはこの 3階付近でクシャツとなっていましたけど、揺れなくなったと思いますけど、クシャツといかなくなったと思いますけど、こういうことで全体の揺れを抑える方法を考える必要があります。これで様々な補修方法を検討して、最適な補修方法を決定したいと思います。

次に 11 ページをお願いします。清水庁舎（正しくは静岡庁舎）です。清水庁舎（正しくは静岡庁舎）も同じ検討しましたが、清水庁舎（正しくは静岡庁舎）は、入力した地震波のうち八戸波と言われる場合ですね、この場合に、こういうところに、せん断破壊、先ほどのボキッと折れる破壊をするという可能性が出てきました。そうすると、おそらくですけども、静岡庁舎の場合は、この弱点となっているところを補強してやれば、全体の揺れ自身、先ほどの層間変形は 100 分の 1 以下になっていますので、おそらく大丈夫と言いますか、耐震性は十分保たれると思います。

ただし、清水庁舎も同じですけども、ちょっと戻して、弱点になっているところを補強したらいいんじゃないかという、弱点となっているところを補強すると、他のところに影響が出る、他のところが弱点になる可能性がある、ここを補強したらいいか

というわけではなくて、全体のバランスを考えながら補強していかないといけないと思っています。

12ページ、すいません。ちょっと12ページ言い忘れましたが、これが静岡庁舎の層間変形ですので、100分の1以下だったらまだ小破にとどまるということですので、この八戸波というときだけ大きく出ています。南海トラフだと非常に小さな変形になっていますので、この八戸波が来たときには静岡庁舎はちょっと大きめが出ますけど、それでも小破にとどまるという結果になります。

それで13ページをお願いします。ほぼ同じような時期に作った静岡庁舎と清水庁舎が、何でこんなに耐震性が違うのかということですが、設計思想は同じなんですけど、やはり耐震設計をどの程度やったかによります。それで、静岡庁舎の場合は動的、先ほどの時刻歴応答解析をやっていきますので、その結果このぐらいの部材を入れないと、もたないんじゃないかということになると思います。静岡庁舎の方が階高が高いので、19階建てで清水庁舎9階ですから、当然、柱の、梁の太さも違うんですけども、例えばちょっと見ていただくと、コンクリートですね、コンクリート、こちらは静岡庁舎・清水庁舎あんまり大きさは変わりません。こちら100センチ×100センチ、こちら90センチ×90センチですけど、決定的に違うのはこの中に入っている鉄骨とか、鉄筋の量です。こちらはですね、こういうH型のものが工作されてあります。しかも非常に幅の厚みの太いもの、それから、こういう周りのところに鉄筋がザッと入っています。鉄筋がこれ20個、20本入っています。一方で、こちらの清水庁舎はこういう丸い鉄骨が入っていて、周りに1、2、3、4ヶ所、しかも細い鉄筋しか入っていません。したがって、ここの中に入っている鉄の量がもう決定的に違うということになります。これが清水庁舎と静岡庁舎の変形の大きさの違いを表していると思います。

今後の検討ですけども、静岡庁舎については、ほぼ大丈夫ですので、ちょっと梁の補強のようなどころが必要かと思えます。清水庁舎と静岡庁舎の分析解析結果の概要ですけども、まとめますと、清水庁舎あるいは静岡庁舎両方とも地震直後の倒壊・崩壊はしないと。余震が来ると、清水庁舎は被害が大きくなり、静岡庁舎は被害は小さいだろうと。建物被害としては、清水庁舎は中破程度、静岡庁舎は小破程度と。清水庁舎については、被災後に、被災前の庁舎機能を今の状態だと維持することが困難となります。最後になりますけれども、やはり市民の皆様、今の庁舎を使って安全かどうかということが気になると思えます。静岡庁舎については、巨大地震が発生しても、第一震では本震ではですね、建物は小破には至りません。よって、現時点においても、物の落下や転倒への備えは必要ですけども、安心してご利用いただけたらと思います。しかし、余震により大破に至る可能性が否定できませんので、地震時の適切な避難誘導方法を早急にまとめる必要があります。清水庁舎（正しくは静岡庁舎）については、余震が生じて、小破にとどまるため、物の落下や転倒防止対策を進める必要があります。

清水庁舎についても、第一震では大破に至らないといっても、かなり物が落下をしてくるとか、いろんな物が倒れるということがありますので、どういう使い方をするかというのは、直ちに再検討していく必要があると思います。場合によっては利用制限をして、建物自身にいろんなものが入っていますから、建物自身の、建物ではなくて建物に入っているいろんなものですね、そういうものを取って軽くすることも必要か

もしも、今回の調査結果を踏まえて、直ちに地震に対する安全性の向上を進めていきたいと思えます。

それから、市民説明会ですけれども、5月23日に、清水庁舎で職員による説明を行う予定です。まず、1番目の清水庁舎と静岡庁舎の耐震性の開心解析結果と今後の進め方については、以上です。

続きまして、人口減少対策にかかるアンケート調査の実施です。これについてはですね、調査についてのご協力をお願いするということです。

静岡市は人口減少が今、非常に厳しい状況にあります。政令市の中で最も厳しい、20ある政令市の中で最も厳しい状況にあるとも言えると思えます。このままでは、今と同様の行政サービスを維持することができなく、このままでというのは、このままの水準で人口減少が続くと、現在と同水準の行政サービスを維持することができなくなる、そして地域経済にも大きな影響が出てしまうので、人口減少対策をしっかりとやっていく必要があります。昨年、市政変革研究会というのを作って勉強を重ねてきて、人口減少はこんな状況という、現状の中間報告を行いました。その中で、何が課題かと、人口減少は生じているんですけども、そして、若年層の女性の首都圏や近隣市町への転出であるとか、婚姻率の低下だとか、晩婚化・未婚化の進行、出生率の低下、出産年齢の高齢化、こういったことが人口減少に効いているんですけども、なぜ、それが生じているのかという、その要因の根底ですね、それをしっかりと見つけていかないと、課題解決にならないと。婚姻率が低下しているの、そのマッチング、結婚のマッチングをして増やせばいいじゃないか、そういう問題ではなくて、もっと根底に問題があるから婚姻率が低下している、その辺りについてしっかりと調べていく必要があると思えます。したがって、これから調査を実施いたします。

アンケート調査になりますけれども、次の2ページを見ていただいて、アンケートの実施内容ですけれども、人口減少対策のための結婚・出産に係るアンケート調査というのを実施します。4月26日、既に実施期間になっていますけれども、5月17日まで、これを6,000人の方にお送りをするということになります。

それから2番目、転出入者向けのアンケートで、転出入をされた方について、その理由であるとか、そういったものについてお聞きすると。これは5,000人。それからもうひとつは雇用ですね。やはり人口減少については雇用の問題、あるいは就業環境が効いていると思えますので、これについても2,500社、そして従業員5,000人にアンケート調査を実施していきたいと思えます。

アンケートが送られてきた場合に、大変ではありますけれども、静岡市の今の厳しい状況をご理解いただいて、社会全体の力で解決していかないといけないわけですので、ぜひアンケート調査にご協力をお願いしたいと思います。私からの発表は以上です。ありがとうございました。

◆司会

はい。それではですね、ただいまの発表案件につきまして、皆様からご質問をお受けをしたいと思います。

社名とお名前をおっしゃってからお願いをいたします。はい、ご質問いかがでしょうか。
はい、SBSさん、お願いいたします。

◆SBS

はい、SBS静岡放送です。それぞれ1点ずつ伺いたかったんですけども、人口減少対策のアンケートをする、この6,000人、5,000人、それから、会社などについてですけども、これはランダムに市が割り振っていくという認識でよろしいですか。

◆市長

そうなります。

◆SBS

ありがとうございます。

あと耐震化の方なんですけれども、清水の庁舎の対策のところ、軽量化っていうところを書いていた部分があると思うんですけども、これはその階に入る従業員というか、市の職員の数を減らすのか、その階にあるもの自体を減らしていくのか、どういうニュアンスを…

◆市長

両方あると思います。人がいるから物が入っているという状況もありますので、人も減らして、例えば、何々課というのをちょっとどっか別のところに行ってもらって、そこにあるいろんな書類であるとか、機械類、机だとか、棚であるとかそういうものを取るというのも、一つの方法かもしれません。耐震補強をするよりも、それが非常に早いものですから、そういったことの必要もあるかもしれません。

ただ、それがどの程度効くかは、また時刻歴応答解析をやってみないといけませんので、まだ直ちにやるというわけじゃなくて、それも一つの案として検討する必要があると思っています。

◆SBS

ありがとうございます。

◆司会

はい。静岡新聞さん、お願いいたします。

◆静岡新聞

静岡新聞です。よろしくお願ひします。

清水庁舎の件で、これいずれはどっかに新しくつくるっていうのが前提で、緊急回避策としての改修ってことだと思うんですけども、いわゆるこの耐用年数的には、耐用年数というのも補修方法によって、10年もつようにするのか、20年もつようにするのかとかっていうのも、これから検討していくということなんですか。

◆市長

はい。費用がどのくらいかかるのかというのが、一番大事ななと思っています。当初考えていたのは、これほどの変形が出ると私自身は思っていなかったのですが、これだけ変形が出るとなると、かなりの耐震改修が必要になるのではないかなと思います。そうすると、それだけお金をかけて、例えば、20年、30年しか使わないというのでは問題がありますので、早めの移転ということもあり得るし、意外にお金がかからないのであれば、長めに使うということもあると思います。

問題は建物の補修もありますけども、今、機械類であるとか、例えばエアコンの問題であるとか、いろんな問題がありますので、要するに水道管であるとかそういったものですね、その老朽化対策も必要になりますので、これが例えば10年ぐらい使うということであれば、そういう、その管の類はそのままの状態でも大丈夫ですけど、20年30年使うとなるとそういったものまで全部変えていく必要があるのです、これまたかなりの金額になると思います。だいたい言えるんですけど、新築と補修を比べた場合、補修ってなかなか効率悪いんですよ。新築はどこか外で作ったのをドーンと作ればいいですけど、補修の場合はその場所、場所での注文設計のようになりますから、非常に効率が悪いのでお金がかかります。

したがって、そのあたりも考慮して、何年使えるかということを考えていく必要があるかなと思っています。構造解析、10年もたせるようにしようとかっていうことではなくて、ある程度、先ほどの安全性を維持しようと思ったら、いくらぐらいの費用がかかるのかっていうのをまず出して、それだけかかるんだったら何年ぐらい使うのが合理的か、ライフサイクルコストというのはありましたけど、新築した場合に毎年いくら費用が実質かかったことになるのかっていうのと、補修をした場合に、毎年いくらかかるのかっていう、この1年にかかるコストを比べてみるというやり方になりますけども、あまりにも補修にお金がかかるというのであれば、最低限の安全対策をして、少なくとも本震では壊れない、そして余震では退避ということを前提として、最低限の補修をするということもあり得るかもしれません。

これ、もうちょっと解析してみないとわからないという状況です。ごめんなさい、解析じゃなくて、解析はもう、診断は終わりましたから、これからは具体的な補修方法を検討していく段階になっています。

◆司会

はい。日経新聞さん、お願いいたします。

◆日経新聞

日経新聞です。今の静岡新聞さんの質問に関連してなんですけども、このいわゆるそのコストの面を比較したときに、効率が悪いっていう直す方がっていうのはわかったんですが、それを検討する時期っていうのは、どれぐらいまでを目途にして、いわゆる、現在は、いわゆる最初、東口移転しようって言ってたんですけど、改修すると、現地改修だっという話になっていましたが、そこを転換する可能性があるっていうふうに今、

聞こえたんですけども、可能性としてはゼロじゃないっていうふうに聞こえたと思うんですけども、その辺の、何て言うんでしょうかね、その辺の判断はいつ頃までにすることになりますでしょうか。

◆市長

今年度内にやりたいと思っています。まず補修方法を考えて、そして、もう1回、時刻歴応答解析をしてみて、どのくらいもつかというところですね。それによって、いくらぐらいの費用がかかるかっていうのをまず出すというのが基本になります。それは、おそらく繰り返し計算になるので、この程度の補修でやってみただけ実際に計算してみたらやっぱり層間変形が100分の1以上出たということもありますので、何回か繰り返しの補修方法と、応答解析をやってみて最適方法を決める。その上で、金額が出てきます。金額を出して、それについて補修に合理性があるのか、もうこれは最低限の補修にして別のところに建てる方がいいのかという判断をする必要があると思いますが、それは年度内には行いたいと思っています。

◆日経新聞

すみません。追加で前提として、建物の補修を行ったが中破という清水庁舎、中破というところが、小破にならないという可能性っていうのはあるんですか。

◆市長

いや、それは何とか抑えられると思います。費用さえかければ小破には抑えられると思いますが、抑える費用がどのくらいかというのが問題になると思います。

◆日経新聞

わかりました。ありがとうございます。

◆司会

はい、その他、発表につきましてのご質問いかがでしょうか。はい、静岡新聞さん、お願いいたします。

◆静岡新聞

静岡新聞です。すみません、同じ関連で清水庁舎の関係なんですけども、確認なんですけど、清水庁舎については、どの程度の耐震性能を目指すのかっていう、考え方については、小破に留まるような耐震性能になることを目指すということではよろしかったでしょうか。

◆市長

そこも検討の余地があると思います。層間変形100分の1以下にするというのは一つの目標ですけども、それにあまりにもお金がかかるということであれば、そこはもう最低限の補修をして、あるいは先ほど言いましたように、利用方法を変えるということ

ですね。弱いところの階はあまり使わないで、そして全体として重さを減らしていくってということもあると思います。その上で、いくらかかるかっていうのを検討するということになると思います。

◆静岡新聞

確認で、あと、このシミュレーション結果ってというのは、なんていうか 100%そのまま信じていいのかどうかという、不確実性みたいなものはないのかとか、これがもう少し大きな被害が出て、その大破になるような可能性っていうのも、やっぱり考慮しなきゃいけないのかとか、そこら辺の考え方はどうでしょうか。

◆市長

よくシミュレーション結果に不確実性があると申しましたが、前回のリニアのシミュレーションへの説明ときにも申しましたが、南アルプスの山に雨が降って、それがどう浸透していくかっていうのは、山の中の状態っていうのは、これは自然物ですから、そして調査が十分できないわけですね。ですから、これはエイヤーで、こんなものでしょう、ということで決めざるを得ないわけですね。こちらの場合は人工物ですから、人工物というのは部材の一つ一つの強さとか、みんなわかっていますし、構造も中は詳細にわかっているわけですね。これに対するシミュレーションは、かなり信頼性が高いです。かつ、そのシミュレーションモデルは、模型実験という実際の建物を揺らしてみていますね、実際に建物を揺らした結果と、そして、シミュレーションモデルの結果を直接比べることができます。したがって、かなり信頼性の高いシミュレーションモデルになってると思いますので、今日お示したモデルというのは、シミュレーション結果はですね、かなり確度が高いと思っていただいて結構です。

◆司会

はい。その他いかがでしょうか。では、発表案件については、以上ということによろしいでしょうか。

はい、では続きまして、幹事社質問に移りたいと思います。SBSさん、お願いいたします。

◆SBS

幹事社のSBSテレビです。よろしくお願ひします。本日は2問伺えたらと思います。まず一つ目ですが、来月告示となります県知事選について伺いたいと思います。現状3名が出馬を表明して、それぞれ政策も発表されていますが、されている中で先日の労働組合のイベントでは、出馬を表明している鈴木康友さんと固い握手をする場面も見られましたが、現時点でどなたが適任だと思うか、応援するかなど、難波市長のお考えを伺えたらと思います。

◆市長

はい。あくまで現時点、今のところということですけども、私が市長としてですね、

どなたか特定の候補を応援・支援する考えはありません。ただ、どういう方に知事になってほしいかということはありませんので、それはちょっとお話をしたいと思います。やはりですね、もう反対を唱えるだけではなくて、やはり物事を前に進めることができる方を望んでいます。そして、東部・中部・西部、東部は伊豆半島、伊豆も含めてということになりますけども、どっかに偏ることなくですね、公平公正かつ合理的に物事を判断してくださる方、こういう方が望ましいと、そういう方になっていただきたいなと思っています。

よく選挙で政策論争が必要というふうに言われますけれども、例えば静岡県の場合、静岡市でも同じですけども、人口減少対策とか少子化対策とか経済産業の強化ですね。これが非常に大きな課題になっています。これは大村さん、鈴木さん、ともにですね、この課題に積極的に取り組まれるという姿勢ですので、この政策形成ですね、よく言う政策論争と言いますが、政策作りという点ではですね、おそらく政策論争にはならないんだろうと思います。大事なことは、どなたがその政策の執行力、実行力、結果を出す力ですね、これがあるかということが非常に大事だと思います。それは県政においても、市政においても、首長の重要な役割、これが政策執行力を高めて結果を出すことだと思っています。市政においてはですけども、強烈なリーダーシップで自分で決めて走るというやり方が良い結果を生むことがありますけども、静岡県、非常に広いですから、東部、中部、西部ですね、そういう多様な地域に様々な防災だとか経済とか、子育て教育だとか、福祉だとか、本当にいろんな社会問題があります。その社会問題の解決というのは、各市町の行政と連携してやるということが大事ですし、その行政だけじゃなくて社会全体の力で解決するというのが大事だと思っています。したがって、改めてどういう方になっていただきたいかということですね、やはり実務をしっかりと回して行って、各市町の話もしっかり聞いてくれてですね、社会の共感と協働、共に働くですね、によって結果を出すという実務型あるいは協調型、調整型、調整型の方がいいかもしれませんが、実務型、調整型のリーダーというのが、今の県政、時々によって違うと思いますが、今の県政においては、そういう方が必要ではないかと思っています。

◆SBS

ありがとうございます。前回の会見で政策を見極めた上で特定候補を応援するっていう可能性もあるということをおっしゃっていたかと思うんですけども、今、ある程度具体的に政策が、それぞれの方が発表している中で、まだその段階ではないということなんですか。

◆市長

さっき申しましたけど政策はですね、大村さん、鈴木さん、森さん、それぞれ出されていますけど、ちょっと森さんは全然違いますけども、大村さんと鈴木さんはほとんど同じというわけじゃなくて、リニアにしても経済産業にとっての防災についても人口減も、いろんなことをやっていかないといけないというのはおっしゃっていますので、それはどちらのおっしゃっていることもその通りだなと思います。

したがって、政策っていうところであんまり差はないんじゃないかなと思いますので、あとはこうやります、という政策をいかに実行できるかの方が、むしろ大事だと思いますし、もう一度言いますけど、本人だけの力だけではできませんので、ぜひ、静岡市政とも連携していただいて、あるいは社会全体の力とも強調していただいて、みんなでこの静岡県を良くしていこうというような行政をやっていただいている方をお願いしたいと思います。

◆SBS

ありがとうございます。いくつもすいません。先ほど語られた知事像、理想の知事像がある中で、今、出馬表明される3名の中、どなたが一番近いとかっていうのはあるんでしょうか。

◆市長

それは特に申し上げない方がいいと思いますので、どの方もですね、そういう方向で反対を表明されてる方は別ですけども、こういう分野を、ありとあらゆるをやっていかないといけないというふうに、大村さん、鈴木さん両方ともおっしゃっていますから、そういう方がしっかりと、これから県民の皆様にご説明をしてですね、その結果決まるというふうに思っております。

◆SBS

ありがとうございます。すいません、二つ目の質問に入りたいと思います。ゴールデンウィーク期間の取り組みについて伺えたらと思います。今年は新型コロナ5類移行後、初めてのゴールデンウィークとなっていますけれども、観光客の誘致だったり市民が楽しめる場所の提供など、市として取り組んでいることがあれば教えていただければと思います。

◆市長

はい、まずはですね、いろんな、いわゆるイベントですね、官民のいろんなイベントが予定をされています。これは毎年、定番になっていますけども、ストリートシアターフェスティバルという、ストレンジシードですね。これが5月4日から6日ですね。それからの姉妹都市のカヌヌ、このシズカンウィークですね、静岡×カヌヌウィークというのも、これも5月4日から5日ですけど、その後も継続して行われます。それから市の歴史博物館では、今川義元展ですね、企画展で「偉大なる駿河の大守」ということで開催していますし、これから楽しみは5月3日に歴史トークショーというのがありますので、今川氏と静岡ということですね、小和田哲生先生と春風亭昇太師匠にいろんな魅力を語って、今川氏の魅力を語っていただくということなので、ぜひ当日券もありますから、楽しみにしていただければと思います。それからもう一つはですね、子どもの遊び場が雨の日に子どもが安心して遊べる場所がないという事は言われていましたので、これについて新しいものを作るとなかなか時間かかりますので、既存のものをということで、旧清水西河内小学校を活用した

子どもの遊び場というのを5月3日にオープンします。バスケットや卓球の他、おもちゃや絵本など、いろんな方に楽しんでいただけるような施設になっていますので、これ3月、ごめんなさい、5月3日から6日までの間ですね、ふわふわのエア遊具だとかいろんなものがありますから、ぜひお越しいただければと思います。

この子どもの遊び場ですけども、来年3月16日までの土日、祝日に開設をします。8月は毎日開設しますので、ぜひ、これについても一度お越しいただければと思います。それ以外にもいろんなイベントがありますので、お楽しみいただければと思います。以上です。

◆SBS

ありがとうございました。

◆司会

はい、では、幹事社質問に関連したご質問を皆様からお受けをしたいと思いますが、いかがでしょうか。静岡朝日テレビさん、お願いいたします。

◆静岡朝日テレビ

静岡朝日テレビです。知事選挙について伺います。大村さんが以前、車座で支援者の方とお話をされた際に、難波さんと携帯の番号をもう既に交換していますよ、ってことをおっしゃっていました。鈴木康友さんや森大介さんと携帯の番号は交換してあるのか。そして、それに関連しまして、以前、前の田辺市長と川勝知事がですね、携帯の番号を交換していないとか、ちょっと、なかなか、災害時有事の際でもコミュニケーションを取れないというような状況がありました。難波さんは、鈴木康友さん、大村慎一さん、森大介さん、例えば、今、現時点ではこの3人が立候補を表明していますけれども、どなたかが県知事になった場合に、有事の際は密に連携をとれるような関係性であるのか教えてください。

◆市長

大村さんと鈴木康友さんですね。大村さんは前から総務省におられた頃に、特に県の副知事として、いろんなご相談をしていましたので、もちろん、そのときに携帯も交換しておりますので、よく存じ上げております。それから鈴木康友さんはですね、これは前浜松市長ですので、当然、県の副知事として、いろんな形でご相談をしたりしております。ただ、携帯を、副知事であったということもあって、鈴木康友さんと携帯は交換していないと思いますが、それから申し上げた森さんはあまり存じ上げていないですね。接点がないと思っております。

それで先ほど携帯電話の話がありましたけども、去年の台風15号のときに、川勝知事と田辺市長が携帯で連絡できなかったというのは、あれは表面的な問題でですね、別に首長同士が災害時に携帯で連絡しなくても、目と鼻の先ですから、例えば県の副知事が副市長のところに来て何とかしてくれて言えばいいし、こっちも副市長が向こうに乗り込んで行って、一体どうなっているんだって言えば済む話でですね。それがその

県知事と田辺市長の間のその携帯電話に、何か修練されてしまった感じで、私としては、非常に矮小なところに話が行ってしまって、本質から外れたんではないかなと思っています。

ただし、どんなことがあるかわかりませんから、携帯電話を交換しておいてですね、頻繁に意見交換、何かあったときにちょっととということで意見交換するのは非常に大事だと思いますので、それは新しい知事とはですね、すぐにでも携帯の電話番号の交換をさせていただきたいと思っております。

◆静岡朝日テレビ

ありがとうございました。

◆司会

はい、中日新聞さん、お願いいたします。

◆中日新聞

中日新聞です。前回の4月12日の会見ですね、知事選について伺います。12日の会見で、難波市長は特定の候補を支援する可能性について十分ありえるとおっしゃっていました。現時点ではまだその段階ではないということなのか、やはり特定の候補の支援っていうのは明言されないお考えなのか、どちらでしょうか。

◆市長

はい。4月12日に申し上げたとき、あのとき、やはり東中西バランスよくというお話をいたしました。ですから、特定のところに偏るようなことがあればですね、それはちょっとまずいということで、そうではない方を支援するといいますか、応援をするということはあると思います。

ただ、今のところですね、そういうことはなくて、やはり皆さん東中西ですね、バランスよく政策を取り組み、実施していく必要があるというふうなお考えを示されているように思いますから、そういった点で、やはりバランスという点でこの方ということをあえて今、私が言う必要はないかと思えます。

ただ、もう少し時間が進んできて、いろいろなお話が出てきたときにですね、それはちょっとというようなことであるとかですね、やっぱりこっちの方にぜひ知事になっていただきたいというようなことがあれば、また、改めてそういう表明をすることは十分ありえると思っています。やはり静岡市政にとってやりやすい方と言いますかね、連携をよりしていただける方がありがたいと思っていますので、そういう方はできれば応援していきたいと思っております。

◆中日新聞

前回の会見と今回の会見でも、先ほど強烈なリーダーシップよりも実務型、協調型のリーダーがいいとおっしゃいましたけど、なんとなく大村さんなのかなという、私のこれは勘繰りですけども…

◆市長

それは勘繰りではないでしょうか。そういう方がいいんじゃないかと思えますけれども、特にどちらの方と言っているつもりはありません。

◆司会

はい、その他いかがでしょうか。はい、静岡朝日テレビさん、お願いいたします。

◆静岡朝日テレビ

しつこくてすいません。静岡朝日テレビです。知事選について1点だけ伺います。現時点で3人立候補を表明されていますけれども、一番連絡を取りやすい方というか、連携を取りやすい方っていうのはどなたになりそうですか。

◆市長

連絡取りやすいのは、大村さん、連絡取りやすいですね。前からよく知り合っていて。鈴木康友さんはやっぱり副知事時代はやっぱり市長ですので、あまりやっぱり、特に市長と副知事ですので、そんなに頻繁にお話はできていませんでしたけど、大村さんはやはり総務省の重責を担っていた方で、いろんな形で相談させていただきましたので、どちらが相談しやすいかという、そうなりますけど。だから、相談しやすいからどちらの方が知事になってほしいということはないので、今の質問にはどちらに相談しやすいかという、大村さんの方が相談しやすいなというのは事実ですね。

◆静岡朝日テレビ

ありがとうございました。

◆司会

はい、その他、テレビ静岡さん、お願いいたします。

◆テレビ静岡

テレビ静岡です。知事選についてなんですけれども、現時点では今のところ誰を応援するというのは公表されず、今後はもしかしたらあるかもしれないということで、言葉としては今の段階ではまだ政策論争にはならないから選べない、というような表現が一番正しいですか。

◆市長

そうですね、政策論争というよりも、どちらかになってもらえないと決定的に困るという状況ではないと思います。やはり、これは県民の投票によって決まるものですから、私がどっちかと申し上げるべきではないんじゃないかなと。とりわけ鈴木康友さんは前浜松市長でしたので、私が仮にですけど、大村さんの方というと、なんとなく西部と中部が分断したみたいな感じが出ますので、そういった面であまり、そのあたりに

については表明しない方が、いわゆる分断を、地域間の分断であるとかですね、連携を損なうようなことがないように、余計なそういうことが生じないようにした方がいいのではないかと思いますので、あえて言わない方がいいのではないかなと、そういうふうに思っております。

◆テレビ静岡

東部や他の市町の首長さんでは、どちらがいいと公表されている方もいらっしゃいますけれども、静岡市の市長だから言わない方がいいということですかね。

◆市長

それもありますけども、いろんなお付き合いが、市長さんたちはあると思いますから、市長同士でお付き合いがあった方も、鈴木康友さんは16年ですかね、やられていましたので、その間、各市町の首長さんたちも結構長い方多くいらっしゃいますから、その間でいろんなお付き合いがあったと思います。そういったことを踏まえてですね、あるいは大村さんとのお付き合いもいろいろあったでしょうし、森さんとのお付き合いもあったと思いますから、そういったことを踏まえて、いろいろお話になっているのではないかなと思います。

私自身の経験からいって、どちらと強烈に親しいだとか、あるいはどちらかに対して強烈な何か拒否感があるとか、あるいはこっちの方が絶対いいというようなことはないので、そういった面で、先ほどおっしゃったように、あえてその分断と捉えかねられないような物言いはしない方がいいんじゃないかなと思っております。

◆司会

はい、その他よろしいでしょうか。

幹事社質問関連以外のご質問もよろしいでしょうか。その他のご質問よろしいですか。はい。それでは本日の会見は…何かありますか。すみません。本日の会見はここまでとさせていただきます。ありがとうございました。

◆市長

はい。ありがとうございました。